

Fontaine

vol. 39

発行日 2013年3月25日
発行/岸和田文化事業協会
〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Email:fontaine@sensyu.ne.jp
http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

現代人と歌舞伎



NPO法人 日本伝統芸能振興会会長 石田 寛人

私の出身地石川県の小松は、滋賀県の長浜、埼玉県の小鹿野とともに、我が国子ども歌舞伎の三つの故郷と言われている。市当局も町の人も、歌舞伎による町おこしを熱心に進めて、歌舞伎のための劇場を7年前に造り、子ども歌舞伎の舞台「曳山」を通して人々の交流を図るための施設を建設中である。もちろん、子ども歌舞伎の盛んなのは、上記3地域に限らない。北陸では、富山県の砺波や福井県の丸岡の歌舞伎が知られ、愛知、岐阜、長野の各県には密度濃く子ども歌舞伎が伝えられ、何より、歌舞伎発祥の上方では、松尾歌舞伎塾をはじめとするすばらしい活動が展開されている。毎年開催される全国子供歌舞伎フェスティバル in 小松で、全国各地の子ども歌舞伎の舞台を仰ぐと、それぞれこの尊い先祖からの遺産を大切に守り育て、教育に、地域おこしに、活用されようとしているのがよく分かる。

しかしそうではありながら、全国的に見ると現在の私たちの日常生活から、歌舞伎のにおいが急速に薄れつつあるのではないだろうか。私に物心が付いた頃の昭和20年代、小松では素浄瑠璃の会が頻繁に開かれていたが、21世紀の今それはほぼなくなっている。「弁慶の百日鬘のような頭」(御所桜堀河夜討など)とか、「十次郎のように可愛い子」(絵本太功記)などの表

現は日常会話からすっかり消えてしまった。しかし問題は、表現よりも舞台や山車の上の歌舞伎が訴えかける内容と、我々の日頃の生活が大きく離れてしまったことにある。

歌舞伎は、我々の祖先の歩みが結晶した経験と英知の宝庫である。私たちがそれを受け継ぎ、次代に伝えることで、将来の日本人の豊かな精神活動の基盤がより強固なものになると思う。歌舞伎は、時代物にせよ世話物にせよ、そんな先祖の営みを江戸時代のスクリーンに投影し、それを現代のレンズを通して見るものである。

日頃の生活と歌舞伎の間の乖離を埋めるために、歌舞伎に携わる人々は現代人の感覚を研ぎ澄ませてこの古典劇に取り組みなければならない。また、将来を担う子どもたちが歌舞伎に取り組み、そのような活動が広がるのが、そのための大きなステップになると思う。そこで、各地の子ども歌舞伎への取り組みが広く支援・認識されるよう努力すること、子ども歌舞伎を指導する力量を持った人を増やすこと、時にはこれは実に難しいことだが、新しい魅力的な作品が創作、上演されることなど取り組むべき課題は多い。

「歌舞伎を身近なものに！」これを目標に、私もささやかな歩みを続けたいと思っている。

Music Art 'nd Theater Association



地方財閥の祖

「寺田甚與茂」^上

寺田甚與茂は、嘉永6(1853)年10月、産声を上げる。嘉永6年という年は、ペリーが浦賀に来航した年であり、その翌年にはロシアのプチャーチンが大阪湾に侵入した。甚與茂は幕末の緊迫した時代に生まれ、少年時代を送ることになる。

甚與茂の身の上も大変で、2年後、安政2(1855)年に弟の元吉が誕生するが、時を経ずして、父甚兵衛が病気で他界する。家業(酒製造)を継続することが困難になってきて、親族会議が何度も開かれ母「徳」に入夫が要請され、「徳」の苦渋の決断の末、甚右衛門が入夫する。

文久元(1861)年母の実家である、佐野の覚野新右衛門宅に預けられる。甚與茂は七歳、元吉は六歳であった。祖父新右衛門は篤学の士で、読書家であり二人の孫の教育に心を配った。

元治元(1864)年11歳になった甚與茂は、生きた社会教育と将来の実業家になるため、覚野家の末子が和歌山三木町で質屋をしていたのでそこで奉公をすることになり、弟の元吉は、大阪市唐物町の大黒屋に奉公にでる。

質屋は副業として、総糸の販売を手がけ、甚與茂は原綿を農家に提供し、その後紡いだ糸を回収する仕事に従事していた。その中から甚與茂の不屈不撓の精神が養われていった。

慶応3(1867)年継父甚右衛門が病に倒れ、急遽二人の兄弟が岸和田南町に呼び戻され、その翌年継父甚右衛門は他界する。

実家に戻った二人は、家業の酒造業に入ったが、醸造の経験が無かったので、主として販売の方に力を注いだ。銘酒「玉の井」の評判も良く家業が順調に推移していた。

近代国家としてスタートした明治初頭の産業界では、銀行業・運輸業(鉄道海運)・繊維工業等の確立が急務であった。

寺田甚與茂は、将来を見通し、当時両替商程度の認識しかなかった銀行業務に関心を示す。華士族の金禄公債への救済対策として「国立銀行」条例が明治5年に発布され、城下町を中心に、旧士族と有力庶民が銀行の設置を勧誘する。岸和田では士族側として、田代環・山岡伊方等、庶民側としては、佐納権一・佐納権六・寺田甚與茂(25歳)等が参加し設立にむけ運動する。

明治11(1878)年12月 岸和田第五十一国立銀行が発足する。頭取に佐納権一・支配人に寺田甚與茂・役員に田代・山岡等が就く。最初は業績は芳しくなく、第三十四銀行との合併話まで出るが、寺田は最後まで反対し岸和田の牙城を守り、明治14(1881)年に頭取に就任し、その後の岸和田繁栄の足場を確立する。



寺田甚與茂像(自泉会館内)



花菜漬

理事 藤田 保平

アブラナの花芽の漬物の事である。

「菜の花や 月は東に 日は西に」蕪村の句で有名な菜の花である。早春の食卓に欠かせない漬物で、ひとつの風物詩のようなものでもあると思っている。が、過日、市販されている「花菜漬」なるものを頂いて食したことがあったがひと口で、これは違うと口走った。そして、これを花菜漬だと思って食している世間の人達をお気の毒に思った。

我田引水は百も承知の上で我家の製法を披露しよう。まず、菜の花の脇芽を10cmから15cmに伸びたのを欠き取る。よく水洗いして水を切り、ひと晩陰干しして少し萎れた頃に洗い鉢へ。洗い鉢山盛り位の量に、片手山盛り位の

食塩を振り、力一杯揉み込む。凡そ十分くらい揉むと青汁が出てくる。この青汁を出すのが肝心で、これを怠ると食した時にイガロツポイ苦味が口中に拡がり、花菜漬の風味が失われる。ただ、この苦味が好きと言う人は論外である。この青汁一合も出ればよく絞って、ビニール袋に移す。この時花菜漬に、もう一度塩を満遍なくまぶして、出来るだけ空気を抜いて冷蔵庫へ。一日も置いておけば出来上がりである。それを1cm位に刻んで、擦りゴマをふれば絶好のご飯の友であり、お茶漬けの相伴である。亡くなった爺様が晩酌の当てにもして「酒も菜も無い夕食は情無いものだ」と呵呵大笑していたものである。

『アルカディア・グレースホール』と 『アルカディア・マリーサロン』開館のご案内

理事 中村 八千代



私が理事長を務め、ソプラノの寺本郁子さんが専務理事を務めています(公財)アルカディア音楽芸術財団は、今年創立33年を迎え、昨年12月に阪急『芦屋川』駅前に新しくホールとサロンをオープンしまして、これまでの演奏活動、音楽を通じた福祉活動、国際文化交流の3つの柱の活動にホールの運営という新しい事業が加わりました。財団活動の本拠地となるホールとサロンは、長年の悲願でありました。

『アルカディア・グレースホール』は、120席まで収容可能な可動式ホールです。またアルカディア室内管弦楽団の本拠地で、専用練習場です。

特にリサイタル、室内楽等のコンサートに適した音響に設計しています。

私が理事長を務め、ソプラノの寺本郁子さんが専務理事を務めています(公財)アルカディア音楽芸術財団は、今年創立

ステージには、スタインウェイ・ハンブルグ製「ルイ15世モデル」のグランドピアノを常設しています。このピアノは日本に5台しかない貴重な歴史的逸品であり、充分に音質が熟成された名器です。バロック様式の美しいフォルムに手彫りの彫刻で装飾され、象牙鍵盤の芸術品でもあります。

音楽以外の芸術分野でも、美術の個展そして舞踏のレッスンやステージ等に使用可能です。また学術の分野でも講演会、会議、レクチャー等に活用して頂けます。

『アルカディア・マリーサロン』は、30席位まで利用可能な多目的なサロンです。2つの所属合唱団(アルカディア室内合唱団とアルカディア・グローバル合唱団)の専用練習場として、そして当財団の併設音楽教室(イブシロン音楽アカデミー)のレッスン場として定期的に使用している他、舞踏や英語通訳教室等幅広い芸術・学術の分野の方々にご利用頂いております。

グレースホール、マリーサロン共に、白い漆喰の壁とクラシカルで重厚な雰囲気の内装で、臨場感のある素晴らしい音響になっております。

皆様のご来場とご利用をお待ち申し上げます。

歩いて岸和田のよさを知る

岸和田慢歩

第10回 「下大沢バス停から本田口バス停までの牛滝街道を歩く」



至牛滝山

ゴール

13 本田口バス停

12 勝福寺



上大沢バス停

11 塔ノ村地蔵



塔ノ村バス停

10 北向地蔵



9 足神さんと宝篋印塔

8 転法輪寺



6 的場地蔵



4 大沢神社



3 大沢山荘



5 大沢町地車庫



大沢駐在所

7 大沢城址



1 下大沢バス停

スタートは南海バス下大沢バス停から

2 道標

屋敷前の石垣の上にある道標。「右さかみち・左みつまへ」と彫ってある。

3 大沢山荘

山滝小学校大沢分校の跡地で、分校が設立される前は大沢神社の神宮寺である「神福寺」があった。

4 大沢神社

元は菅原神社であったが、明治44年に上大沢の神社を合祀して大沢神社に。社殿は昭和9年の室戸台風で破損し、翌年再建されたもの。社前の狛犬は子ども連れの珍しいものであり、本殿の横にある杉の大木は市の天然記念物に指定されている。

5 大沢町地車庫

岸和田市内で最も南東の山間部に位置するだんじり小屋。10月祭礼の日には約5キロ離れた稲葉町内まで曳行する。

6 的場地蔵

台座に「法界」と彫られている地藏尊。的場の由来は、この辺りで村人が弓的を射て、その年の豊作を占ったことから、といわれている。

7 大沢城址

転法輪寺から牛滝川を隔てた向かいの山は、大沢氏の居城址といわれ、地域の人は「お天守台(おてんしだい)」と呼ぶが、天守閣があったわけではない。周辺には「馬場田」「塀の端(へのはな)」といった名残の地名が使われている。

1 下大沢バス停

2 道標

スタート

至内畑

※編集の都合上、地図の縮小率は正しいものではありません。
国土地理院発行やネットなどの正式な地図と照らし合わせて、散策することをおすすめします。

大沢町は牛滝山のふもとに位置する、静かでのどかな地区。今回は、春のうららかな陽気を楽しむのにふさわしい、自然に恵まれた比較的簡単なコースを紹介します。

理事 藤田保平・齒黒猛夫

⑧ 転法輪寺

役の行者の開創といわれる浄土宗の寺院。元は裏山の中腹にあり、跡地は現存。中興した重蓮舎灯誉上人は、極楽寺や春木の西福寺も開創・中興している人物で、知恩院27世の住職となり、紫衣の勅許を賜っている。

⑨ 足神さんと宝篋印塔

転法輪寺横の集団墓地にある、玉石の足神さんと東風谷橋から移された宝篋印塔。

⑩ 北向地蔵

「通堂橋」の傍らにある北向きの地蔵尊。牛滝川は通堂橋の下で道路の左側から右側に移る。

⑪ 塔ノ村地蔵

塔ノ村は昔、「殿村」と称され、大沢城の関係だと考えられる。地蔵尊は「齒痛のお地蔵さん」として有名。

⑫ 勝福寺

開創は役の行者といわれ、奈良時代の創建。本尊は薬師如来で、その昔、正月の注連縄を作る際に出る「ヒゲ」の出方で、その年の米の相場を占い、大阪堂島の米仲買人たちがよく参詣に訪れたらしい。

⑬ 本田口バス停

ゴールの本田口バス停。

スタート地点は南海バスの「下大沢バス停」。すぐ側の豪華なお屋敷の石垣の上に「道標」が残されています。そのまま道路を道なりに進んでいくと、かつての大沢分校跡である「大沢山荘」。その隣には「大沢神社」が鎮座し、神社の向かいには駐在所があつて、裏の倉庫が「大沢町地車庫」です。

しばらく進むと「的場地蔵」が祀られていて、さらに進むと「転法輪寺」が見えてきます。このお寺を背にして眺める山中には、中世に構えられた砦跡とする「大沢城址」があり、寺の横にある集団墓地の中には墓石に囲まれた「足神さん」、坂道の終点には「宝篋印塔」が建てられています。

道路に戻って先に進むと、新道と旧道が分かれすぐに戻っているところがあり、旧道に架けられている苔むした橋が通堂橋で、うっそうと茂った樹木の下に「北向地蔵」が祀られています。橋を渡って新道に戻り、塔ノ村のバス停を越えたところに「塔ノ村地蔵」、しばらく歩くと道路から少しだけ入ったところにあるのが「勝福寺」で、境内は児童公園になっています。

勝福寺の近くにある「本田口バス停」が今回のゴールです。距離はあるものの、高低差もゆるく一本道なので、暖かい春の一日を散策するにはうってつけといえます。本田口の次のバス停は「牛滝温泉せせらぎ荘前」。一歩足を伸ばし「いよやかかの郷」でくつろぐのも、いいかもしれません。

岸和田 あ・ら・か・る・と

理事 紙野 陽子

じゃこ茄子

(じゃこごうこ)

泉州特産の水なすの浅漬は「最高のごちそう」と絶賛されていますが、食卓に出されなかった浅漬もひと手間かけると、また絶品になります。

鮮やかな茄子紺は、月日を経てぬか床のなかで銚色に変化、古漬けと呼ばれます。この古漬けがたまると沖で獲れるえびじゃこと炊き合わせ、郷土の味「じゃこ茄子」が出来上がります。

じゃこ茄子 (じゃこごうこ) の作り方

【材 料】	古漬け なす	5個
	えびじゃこ	150g
	出汁	1cup
	砂糖	好みで
	醤油	大匙2
	みりん	大匙1.5

- 【作り方】
1. なすは7mm位の厚さに切り、一晚水をかえながら塩出しする。
 2. えびじゃこは頭と尾をとる。
 3. なすを固く絞り、出汁でやわらかく煮る。
 4. えびじゃこ、調味料を加え、煮つめる。



生き生きと自分を表現したい!!
マドカドラマスクール

「マドカドラマスクール」の皆さん

毎月第2・4日曜日の午後、岸和田市立マドカホールのリハーサル室から元気な声が響いています。岸和田市の育成団体「マドカドラマスクール」のメンバーの練習が行われているのです。

設立して16年!!

岸和田で初めて「子どもえんげき祭」が開催された1990年、岸和田おやこ劇場の会員の子どもたちが集まって始めたワークショップが始まりです。

1998年指導者として木村 玩さん、大谷羊子さんを迎えて8月の「子どもえんげき祭」に出演しました。とても楽しいお芝居でこんな芝居をもっと続けてやりたいという当時の子どもたちの思いを受けて、翌1999年4月市の育成団体として青少年劇団「マドカドラスクール」がスタートしました。同時にメンバーの保護者や支援者で「マドカドラマスクール後援会」も発足、講師謝礼や経費などもその当時から負担して自主的に運営しています。

お二人の指導者は当初より一貫して「まず子どもたち自身が楽しめることが大前提、その上で観客をも意識した舞台を作る」として、指導を続けておられます。

現在、主に脚本は大谷さんが作成、演出を木村さんが担当しています。「今までに上演した作品は全て創作です。それぞれの子どもを見極め子ども中心に作りますが、少し背伸びした役を与えて伸ばすことを目指しています」と話されています。

自由な発想と柔軟な感性で!!

「自分を生き生きと表現したい」「自由な発想と柔軟な感性で色々な役を演じたい」という子どもたちが、演劇の基礎から学び作品を作り上げていきます。

現在小学5年生から21歳までの13人が在籍しています。入団を希望した理由や、参加しての感想をスクール生に尋ねてみました。

- 学校は窮屈だったが、ここでは仲間がいて自分を自由に表現できて、とても楽しいです。
- 初めは何も言えなかったが、意思、考えをはっきり表現できるようになりました。
- 他校の人たちと交流出来、学年も年齢も違う人たちと話せるのは、すごくいいことだと思います。
- 受験の時期に練習を休んだが、振り返ってみると、その分余計に勉強できたわけでもない。休まなくて良かったのと思います。
- ここでは様々なことを話し合っ自分たちで決定しているのがすごくいいことだと思う。

などなど、少しハニカミながらもきちっと目をあわせて自らの思うところを語ってくれました。



公演は毎年2回!!

そのようにして作り上げた作品を年2回、「子どもえんげき祭in岸和田」及び「岸和田市文化祭」で上演しています。

岸和田市からの依頼で、2011年には児童虐待防止推進の啓発劇、2012年には「デートDV」予防啓発劇を上演しました。社会問題を取り上げた演劇に、初めは戸惑ったようですが、今はその意義が十分理解できると話しています。虐待される役を演じるのはやはりしんどかったと言いますが、今後ともそういう依頼にもチャレンジしていきたいと口々に話していました。

すっかり成長!!

今年の岸和田市文化祭には脚本も演出もスクール生が担って出演したい、と張り切っています。今や、振り付けや演出ができるメンバーも育っているとのこと。たくさんのごことを学び、練習を積み上げてきた成果ですね。

「舞台をこなすことは自分の役割があり、なくてはならない存在であることを実感させることであり、後には引けないという経験をするのが大切です」と、指導者のお二人は交々話されます。

心丈夫な後援会!!

後援会のメンバーにも伺いましたが、皆さん自身演劇が大好き。赤ちゃんを抱いて熱心に練習をみているお母さんもいます。指導者もスクール生も安心して練習に励めるという基盤は万全です。

入団随時・お待ちしております!!

入団年齢は小学3年生から20歳です。スクール生は30人程度が理想的なので、一人ひとりを良く見られるとはいうものの、現在の13人ではやはり少なめ。皆様の入団を鶴首してお待ちしております、とメンバー、指導者、後援会員揃っての声です。興味をお持ちの方は、是非どうぞ!!

お問い合わせはマドカホール (072-443-3800) へ。

(取材・文 本郷元子・小島栄子)

Event Report

アンケートからの抜粋

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

クラブ倶楽部 邦楽コンサート(箏・三絃・尺八) 岸和田冬の陣

邦楽器の演奏やピアノとのコラボ、地歌によるコンサートを自
泉会館ホールで実施し、74人の入場者がありました。

平成25年1月19日(土)午後6時30分～

〈皆さんの声〉

- ◆邦楽の若い演奏家の方々の素晴らしい音を聴かせていただき、とってもいい時間をありがとうございました。いろんなジャンルの企画を楽しみにしています。
- ◆一曲ずつ曲の説明をしてくれて嬉しかったです。今まで邦楽に触れた事はあまりなく、今回初めてじっくり聴かせていただきました。五線譜では表せない微妙な音の空気の流れや間の取り方など、繊細で素晴らしいと感じました。
- ◆ピアノとお琴の演奏を聴くのは初めてですが、凄く良すぎて感動しました。私の中で、調和がもの凄くあつてなあってと思い、また聴きたくくなりました。
- ◆日本の文化、邦楽はいいですね。



第2回自泉ジュニアコンサート

平成25年2月23日(土)午後4時～

オーディション(46組出場)に合格した小学2年生から高校2年生までの18人によるコンサートを自泉会館ホールで実施し、116人の入場者がありました。また、最優秀賞2人、優秀賞2人に対して賞状を授与するとともに、フレッシュプレミアムコンサートに出演していただきました。

〈皆さんの声〉

- ◆伸び盛り子どもたちにこういうチャレンジ精神を活かした催しを聞くことは凄く良いことだと思います。もっと、色々な形で色々な子どもたちが人前に出られる様な機会を増やして欲しいです。
- ◆このコンサートは、地域子どもたちにとって、音楽の勉強の励みになるとても素晴らしい企画だと思います。企画、運営は大変だと思いますが継続を、応援しています。
- ◆子どもの素晴らしい才能に、大変感銘を受けました。
- ◆素晴らしいコンサートでした。芸術文化都市「岸和田」に相応しい催しです。
- ◆レベルの高いコンクールでとても素晴らしかったです。



受賞者の皆さん

程さんのJAZZ LIVE at 自泉 ～程さんと関学軽音楽部OB～

テレビやラジオなどでお馴染みの中国料理のシェフ、程一彦氏とその仲間たちによるコンサートを自泉会館ホールで実施し、86人の入場者がありました。

平成25年2月24日(日)午後2時～

〈皆さんの声〉

- ◆古い建物と近代的なJAZZとのコラボがじっくりして良かった。高齢者にとって、古き良き時代を想い出すひと時でした。
- ◆楽しいおしゃべりと心良い音楽が聴けて、とても楽しい時間を過ごすことができました。
- ◆程さんが歌われるとは知りませんでした。歌手は、声も大切ですが、歌に表情があり、お一人でミュージカルを演じておられるように感じました。
- ◆素敵なお声、演奏を有難うございました。私も同世代、とても勇気付けられました。ただ、少し会場が寒かったです。
- ◆懐かしい曲に、昔を想い出しました。良き時代、若かりし頃。



第6回フレッシュプレミアムコンサート～未来へ ことから～

平成25年3月2日(土)午後5時～

平成24年4月～12月のフレッシュコンサートの出演者の中から推薦された9人の演奏者と、「自泉ジュニアコンサート」で受賞した4人によるコンサートをマドカホールで実施し、192人の入場者がありました。また、優秀者に対して賞状を授与しました。

〈皆さんの声〉

- ◆地域の若手演奏家を支援するようなコンサートはとても素晴らしいと思います。ジュニアには、とても励みになります。
- ◆若手演奏家の育成に力を入れておられる岸和田市が羨ましいです。
- ◆どの演奏者も一生懸命さが伝わってきて、とても気持ち良い時間が過ごせました。
- ◆フレッシュコンサートというけれど、とてもハイレベルでびっくりしました。
- ◆各々の方の「ひたむきさ」が伝わってきました。とても良かったです。
- ◆ピアノ演奏が殆どであったので、もう少し他の楽器も聴きたかったです。
- ◆ジュニアの方の演奏が特に素晴らしかったです。次は、ピアノ以外の演奏も聴けるといいですね。



演奏者と審査員の先生方

岸和田文化事業協会の事業 Information

平成25年度 定時総会開催

平成25年度定時総会を下記の要領で開催します。

日 時：平成25年5月25日(土) 午後2時より

場 所：岸和田市立自泉会館

内容 総 会

- ①平成24年度事業・決算報告
- ②平成25年度事業・予算案審議
- ③役員改選

④講演会：岸和田煉瓦から自泉会館まで

～山岡尹方と寺田甚与茂・甚吉の足跡～

お話：岸和田文化事業協会副会長

西念 秋夫・行 龍男

第34回自泉フレッシュコンサート ～春風にさそわれて～

日 時：平成25年4月19日(金)午後7時開演

会 場：岸和田市立自泉会館ホール

出演者：島田 望未(ソプラノ)

中西 勇介(ギター)

入場料：一般前売1,200円(当日200円増)

会員前売1,000円(当日200円増)

岸和田ゆかりのソリストを集めて vol.5

マルシャーク作

朗読 & 音楽 「森は生きている」

日 時：平成25年6月16日(日)午後2時開演

会 場：岸和田市立自泉会館ホール

出演者：加藤 くみ子(朗読)

角野 芳子(ソプラノ)

セルバンテス 堺 多恵(ピアノ)

池上 尚里(ヴァイオリン)

入場料：一般前売3,000円(当日300円増)

会員前売2,500円(当日300円増)

文化情報

「第64回岸和田市市展」への出品を募集いたします。

自作未発表のものに限ります。

詳しくはマドカホールにて配布中の募集要領をご覧ください。

資 格 平成10年4月1日以前に生まれた人。

出 品 料 500円

搬入場所 マドカホール 展示場(荒木町1丁目)

会 期	部 門	体 裁	出品数	搬入日時
第1期	洋画	額装 (ガラス不可)	1人1点	5月7日(火)・8日(水) 午後1時～7時 展示期間 5/12日～19日
第2期	染織 陶芸	額装・屏風・着物・タペストリー・オブジェ 皿立て等、装飾的の附属品不可	1人2点 以内	5月21日(火)・22日(水) 午後1時～7時 展示期間 5/26日～6/2日
第3期	書 日本画	額装・軸装・裱装・衝立・屏風・帖・巻物・刻字 額装(ガラス・アクリル不可)	1人1点	6月4日(火)・5日(水) 午後1時～7時 展示期間 6/9日～16日
第4期	写真 俳画	パネル張り・額装(ガラス・アクリル不可) 額装・軸装	1人1点 1人2点 以内	6月18日(火)・19日(水) 午後1時～7時 展示期間 6/23日～30日

※作品の額縁などにはつり下げ用のひもを必ず付けてください。

問合せ先：マドカホール(担当：中川・西山) 電話：443-3800 月曜日休館

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで

TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

平成25年度(平成25年4月～平成26年3月)

会員募集

「岸和田文化事業協会」は、文化・芸術の発展をめざして活動する市民文化団体です。鑑賞や参加だけでなく、創造、発表、企画、情報発信、提言など自らのネットワークを活用して「地域の文化環境」づくりに貢献することを目的としています。文化・芸術を愛し、会の趣旨に賛同される方はどなたでも入会できます。岸和田市在住以外の方も歓迎いたします。

年会費(入会費不要)

個人会員(1口) 2,000円 団体会員(1口) 5,000円
家族会員(1口) 1,000円 法人会員(1口) 10,000円
(個人会員の同居家族) 特別会員(1口) 50,000円

入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。

郵便振込の場合は
口座番号 00970-9-28145
加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで。
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

Fontaine vol.39

発行：岸和田文化事業協会

発行日：2013年3月25日

◆事務局

〒596-0073
岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員

和田正則・紙野陽子・小島栄子
齒黒猛夫・藤田保平・本郷元子

編集後記...

東北大震災から2年が経過した。しかし、全く復興とは縁遠い風景のままである。

膨大な額の復興予算が、被災地以外で使われているなど報道されている。

復興予算が大震災を口実によそで費消され、被災地が立ち直れないことに歯ざりする。

被災した人々に、様々な弱い立場にいる人たちに、常に寄り添う心で私たちの協会にできる文化の発信を続けたいと思うこの頃である。

(本郷)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

岸和田文化事業協会

検索